西山地区
コミュニティ協議会だより
【（西風）令和５年度２月号】
発行：西山地区コミュニティ協議会
会長　中村史傳
令和６年２月７日発行
薩摩川内市下甑町瀬々野浦 1194
TEL　09969-5-0122
FAX　09969-5-0355

これからの行事（２月の行事）

５日	事務局会議＃20　10:00
６日	コミュニティ主事連絡会 10:00
７日	サロン　健康体操
８日	島内葬祭場に係る意見交換会（鹿島）
９日	ｺﾐｭﾆﾃｨﾌﾞﾗﾝﾄﾞ市用餅つき
10日	ｺﾐｭﾆﾃｨﾌﾞﾗﾝﾄﾞ市へ前日移動
11日	ｺﾐｭﾆﾃｨﾌﾞﾗﾝﾄﾞ市：薩摩川内市
18日	大帯姫神社春の祈願祭
21日	西山地区市・県民税確定申告
28日	48地区コミ協会長会議

環境美化に努めましょう

環境美化推進委員の山下誠さんから「、ゴミ（多くは飲物の空き瓶、空き缶類）が耕作地、空き地、空き家、道路脇、留守の家の庭先）などに投げ込まれているので注意してほしい」という提案がありました。（1月22日（月）の事務局会議）

自分が購入した物は持帰って自分で再生ゴミに出すなど地球環境にやさしく処理したいものです。他人に処理させるなどとはもってのほかです。

この地域はコミュニティ、自治会などが呼び掛けて、道路愛護、河川愛護、海岸清掃、地域内清掃に積極的に取り組んでいます。この運動を広げて「ゴミの発生元」を抑えましょうという提案です。

もちろん島内の人、地域住民がゴミのすべてを出しているとは思えません。私たちの環境美化意識の高揚によって地域外から来られる方々にも何かを訴えようということです。

ついでにもう一点。

「ゴミは衛自連が販売しているゴミ袋に入れてゴミステーションへ出しましょう」という約束事を守りましょうということです。

ゴミの処理は薩摩川内市がおこなっていますが、その費用の一部を受益者である我々が負担するという建前なので、よく理解をされ普通のビニール袋で出すことはやめましょう。

第５期地区振興計画書一歩前進

1月29日、18時半より、第３回策定委員会が開催されいよいよ完成に近づいてまいりました。出席者は13名中12名。下甑支所から坂元秀朗課長代理兼グループ長も出席されました。後自動的に入る部分があり、役員事業推進委員会を経て、定期総会に提案されます。

計画の３本柱は①旧西山小学校の景観保存と集落内道路や空き地の衛生管理と美観維持、②高齢者と若い世代との交流を活性化する、③地区民の健康と体力の維持（区民運動会の実施）で基本方針は合わせて10項目です。表紙は八艘穴が採用されています。

基本的には第４期計画を踏襲し押し寄せる高齢化と人口減少に対応して、内容や方法を工夫して目標達成に努めます。

甑島に見られる寄生植物

今年も助八古道をあるこうかいが 12 月 10 日におこなわれました。一番左のツチトリモチが峠から下って西部 1 号線に出るところに見えました。雌雄別株雄株は発見されていないそうです。それから2週間後真ん中のキイレツチトリモチとヤッコソウが別の林にありました。暖かいので遅くまで見えるのでしょうか。ツチトリモチはハイノキ属(ここではクロキ)の根っこに寄生します。キイレは黄色だからで　はなく鹿児島県喜入町で1911年に発見されたのでこの名前がついている。トベラの根っこに寄生していた。シャリンバイにも寄生するとか。ヤッヨソウは大名行列のやっこさんを連想させるところから名前がついたらしい。こちらはスダジイ、コジイの根っこにつくといわれている。12 月下順に見られた。ミヤマツチトリモチの花穂は橙黄色。少年時代同級生がキタビヤから持ち帰ったのがひょっとしたらこれだったかも

岬、岬に絶景ポイントぽいんと

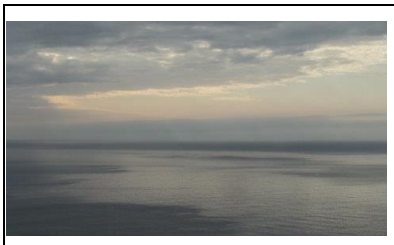
甑島の西海岸は絶景ポイントのの連続である釣り掛崎から里までいろいろな景色があり楽しめ飽きが来ない。

釣り掛崎を回った所には太古の地殻変動をほうふつさせる堆積岩に花崗岩が割り込んで出来たような岩が、海中にそびえている。またハイサキ鼻には花崗岩が磯に容積を誇っている。瀬々野浦磯は堆積岩が熱変性を受けてホルンヘルスという岩盤層を形成している。」沖瀬（ナポレオン）もそれだということである。

そこからずっと雄大な地層が、続く。

浦内に「唐船が艫」という地名がある

昔遣唐使船が難破してまっ二つに割れた艫が寄ってきたのだろう。里の海岸まで見飽きることはない。そうそう、金山海岸には緑青を噴出した場所があり、ここが昔金を掘っていた場所の一つかもしれない。



シリーズ 11　故郷を深く浅く探る

きぬうの晩

年配の人と話していて、全く違う捉え方をして話がかみ合わなくなってしまう言葉がある。それは「きぬうの晩」という言葉である。

我々の世代(昭和戦後生まれ)は、「きぬう」とは「きのう」だから「昨夜」のことと、とらえてしまう。

ところが、戦前生まれの人たちの「きのうの晩」は一昨夜のことなのである。

「しんくだいの〇〇はきぬうの晩帰(けえ)ってきた。」というと、「んんなまた、おとてーの晩よ」というように話が、かみ合わなくなってしまうのである。

方言辞典で調べると「きのうの晩」とは「一昨夜」のことを言う地方もかなりある。

ちなみにシンヌーラふうでは昨夜のことは「よべ」といい古語である。

私たちもちょっと旅行に出ていて、夕方の船便で帰った時に翌日にあった人から「いつ帰ったとか」と尋ねられたら普通に「よべやいばお」と答える。

「きのうの晩よ」と答える人は若い世代の人かもしれない。

私は「よべ」と「きぬうの晩」は、日没をもって一日のおわりとした、古い時代のなごりではないかと思う。(中村史傳)